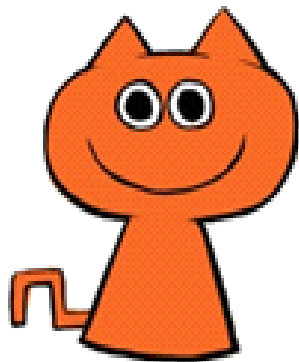


豊中市社会福祉協議会の
CSWと生活困窮者自立支援とりくみ
地域共生社会へのあらたなステージへ
自立支援相談から地域づくり



マスコットキャ
ラクター“ビーのん”
よろしくね！！



地域共生社会への新たなステージ

- ・一人も取りこぼさない ……**SOS**を出せない人に届く
- ・排除から包摂へ ……総論賛成各論賛成へ
- ・支えられた人が支える人に
- ・全ての人に居場所と役割を

…それを支えるための丸ごと

断らない福祉

多機関協働

…福祉が町おこし

…社会的孤立への対応



コミュニティソーシャルワーカーが支える住民主体の地域活動(大阪府豊中市)

自治体概要※

人口 398,479

面積 36.60km²

小学校数* 41

中学校数* 18

※2019年4月1日現在

*市立のみ

- 小学校区ごとに設置した「校区福祉委員会」(地域住民が活動の中心)において、ごみ屋敷など、なんでも相談を通じて把握した課題を地域住民とともに解決を図る。
- 社会福祉協議会(生活困窮者自立支援制度の自立相談支援の委託も受ける)のCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が、専門的観点からサポート。

住民に身近な地域での取組

◎校区福祉委員会

- 小学校区ごとに設置された自主ボランティア組織
- 校区内の福祉問題を解決するために、地域の各種組織の協力を得て活動
- 配食サービス、ミニデイサービス、サロン事業、ボランティアの育成・登録等を実施



豊中あぐり

◎豊中あぐり(新たな担い手の育成)

- 都市型農園を拠点に、人の交流と社会参加を促進(中高年男性中心)し、地域福祉の担い手づくりを目指す

◎福祉なんでも相談窓口(地域福祉の活動拠点)

- ボランティア(校区福祉委員、民生・児童委員)がどのような相談でも受け止める。

◎CSW(コミュニティソーシャルワーカー)

- 市社会福祉協議会のCSWが専門的観点から住民活動をサポート
- 住民と協働しながら、地域のニーズを把握
- 必要に応じて、関係機関や広域のネットワーク会議等につなぐ



住民・専門職によるアウトリーチ(ローラー作戦)

市レベルでの取組

地域包括ケアシステム推進総合会議(市全域)

- 多分野の相談支援機関の課題共有、しくみづくりの場

高齢

障害

子育て

医療

生活困窮

民生・児童委員
校区福祉委員

警察

消防

コミュニティ
ソーシャルワーカー

連携

連携

地域福祉ネットワーク会議 (日常生活圏域：市内7地域) 【高齢部会・障害部会・子ども部会】

- 専門職、高齢・障害・児童の施設事業所、地域住民、民生委員・児童委員などが参加
- ワークショップなどを通じた課題共有・地域連携の場

1,豊中市社会福祉協議会のCSWの取り組み 2004年から地域福祉計画に位置付け

- ①制度の狭間から地域づくりへ
- ②住民と協働するワーカー
- ③ライフセーフティネットの仕組み
- ④プロジェクト会議(出口づくり)

総論賛成各論賛成 排除しない地域づくり

→ 個の課題から地域づくりを考える

ゴミ屋敷・子供の貧困・ひきこもり・8050

アルコール依存・刑余者などなど

社会的孤立へのアプローチ



コミュニティソーシャルワーカーの 取り組み

相談者

本人・地域住民・民生委員など
関係機関職員
行政担当課、保育所・施設など
福祉なんでも相談窓口

相談

CSW

調整

問題解決

公民による支援のコーディネート
行政制度でサポート
ボランティアによる支援
校区活動による支援
困難事例についてはケース検討会



大阪府の定めるCSW
養成講座を修了しています



コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の役割は？

●福祉なんでも相談窓口のバックアップ

- ・社会的援護を要する人々への対応
- ・複数機関の連携による支援が必要なケース
- ・公民協働でのサポートが必要なケース
- ・地域との関係調整が必要なケース

●地域福祉ネットワーク会議の運営

- 地域福祉計画の支援
- セーフティネットの体制づくり
- 要援護者に対する見守り・相談

ごみ屋敷

孤立死

薬物依存

自殺

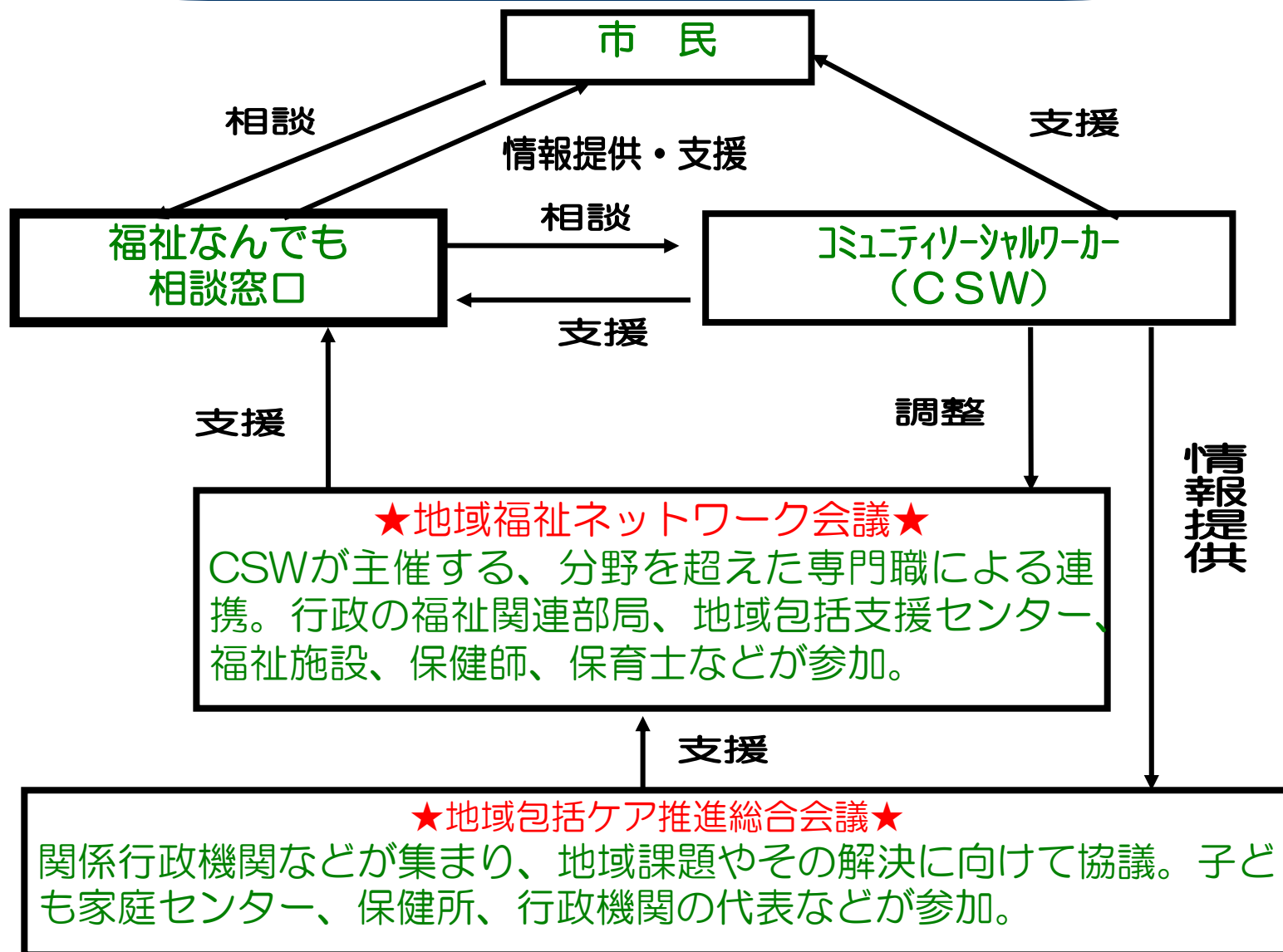
社会的孤立

虐待

不登校

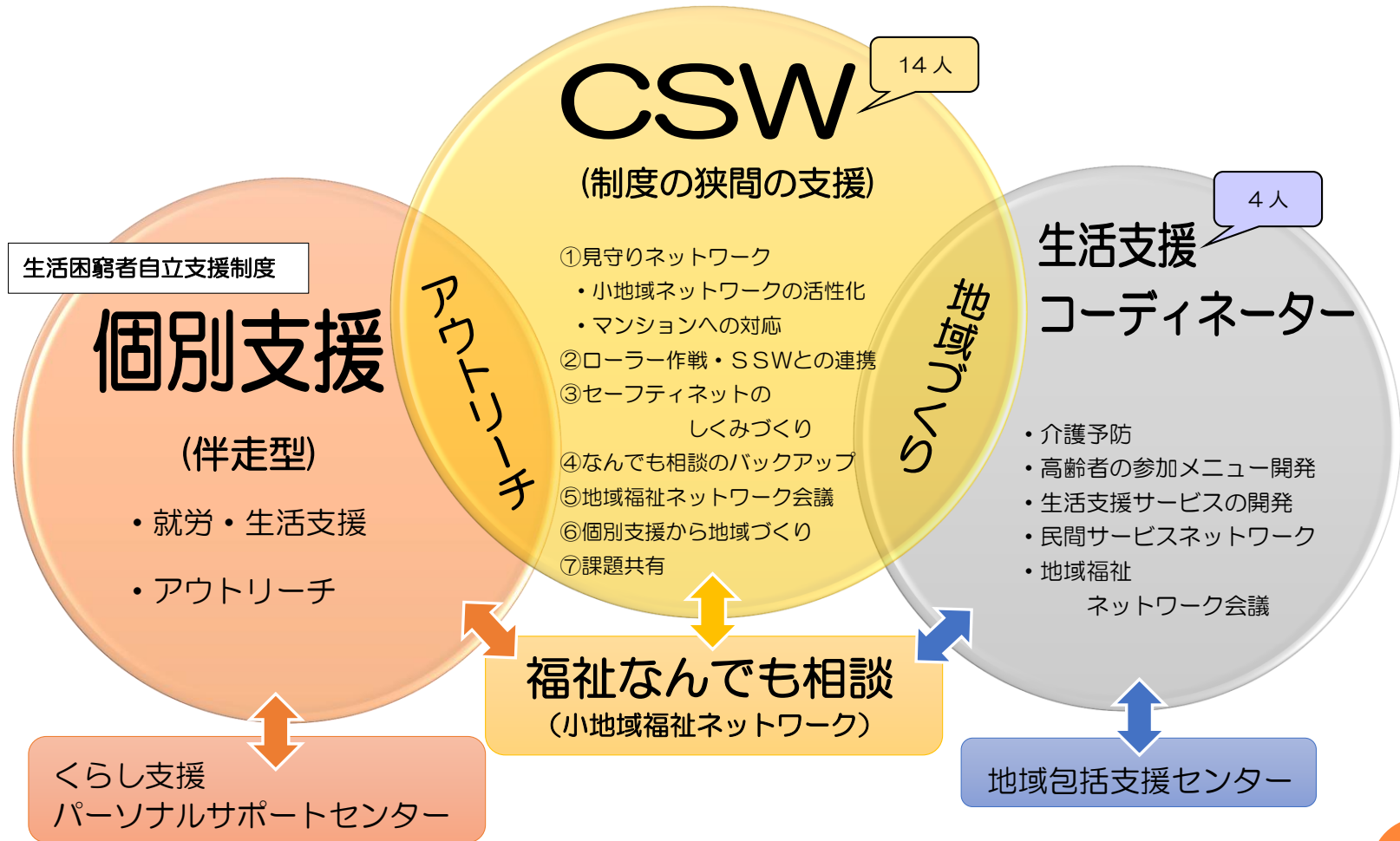
ひきこもり

豊中ライフセーフティネットの仕組み 地域福祉計画



【地域福祉推進専門職の役割】

豊中社協(案)



2, 豊中の総合相談とアウトリーチ

地域住民・なんでも相談・事業所・大家、管理組合・貸付・学校・民生委員等

見守りローラー作戦



生活困窮案件・サービス拒否・ひきこもり 等のケース



アウトリーチ



アセスメント



モニタリング

緊急対応・経済再建支援・生活支援



地域との連携

サービスとの連携

出口支援(居場所と役割)

居場所づくり 就労支援 (個を支えるための支援)



地域づくり(制度の狭間を支えるための仕組みづくり)

伴走型支援



3, 一人も取りこぼさない 入口づくり 早期発見・アウトリーチの必要性

- ① 措置から契約へ福祉制度が大きく変化したことに伴い
SOSを出せない人、サービス拒否者は繋がらない
- ② 本当に困っている人はなかなか制度に結び付かない



A民生委員・校区福祉委員による早期発見

見守り、声掛け、福祉なんでも相談

B住民による見守りローラー作戦

民生委員、福祉委員、地域包括支援センター、CSW

C多機関との連携による早期発見

生活困窮者・社会的孤立者の早期発見のための検討会議

行政の滞納状況・SSW・病院などとの連携



A校区福祉委員・民生委員による活動

個別援助活動・・・見守り・声かけ活動・個別支援

グループ援助活動・・・ふれあいサロン

世代間交流・ミニデイサービス

会食会・子育てサロン

その他・・・災害時の安否確認事業

子どもの安心安全見守り活動

福祉なんでも相談窓口



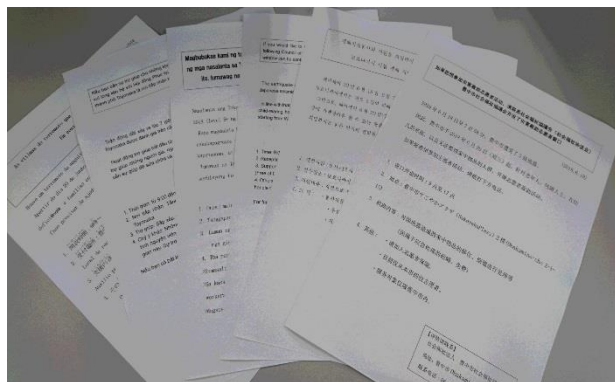
大阪北部地震 日頃の見守りが効果を発揮



地震に関する相談窓口

建物損壊などの被害で「災証明」
が要る場合... 6858-2150
(国定資産税課)

片付けなどで助けが必要な場合
... 6848-1000
(災害支援ボランティアセンター)

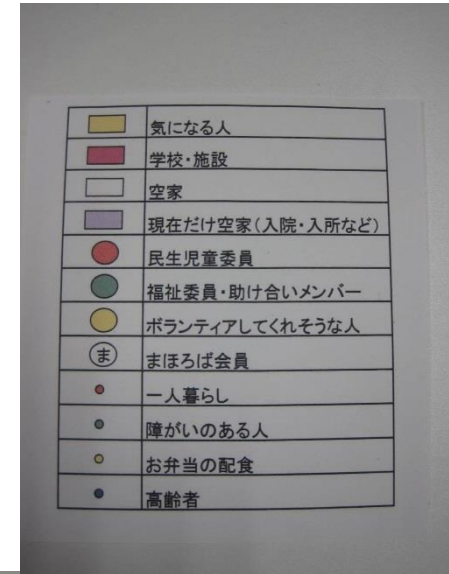


校区福祉委員会活動

- 福祉なんでも相談窓口（小学校区ごとに設置）
- ・身近な福祉相談の実施と専門機関への取次ぎ
 - ・地域住民が集う、交流ふれ合いの拠点
 - ・福祉サービスに関する情報、ボランティア情報、地域福祉活動情報の受発信
 - ・概ね週1回、2時間開設



B, ローラー作戦 年間4000軒 見守りマップ作り



C生活困窮者・社会的孤立者の 早期発見・支援のための検討会議



4, 個別支援から地域づくりを 伴奏型の意味 (排除から包摂へ)

- ・徹底的な本人尊重
- ・制度へつなぐだけではつながらない(伴走の意味)

本人とつながってこそつながることができる

- ・本人支援と地域の関係性の修復
- ・制度の狭間を支える仕組みづくり(公民協働)
- ・すべてのの人に居場所と役割を
- ・世帯丸ごとの支援

祖母・・・認知症

母・・・統合失調症

娘・・・未婚シングルマザー ネグレクト

息子・・・知的障害 グループホーム

世帯丸ごとを支える支援ができていない



事例紹介



事例1 ホームレス・・・資源ごみ持ち去り禁止条例と連携

地域の方からの連絡



公園への巡回相談＊雨の日・雪の日



サービス拒否・支援拒否



本人の希望により添い支援約束



生活保護申請(再度ためらう)



家探し

＊民生委員



生活用品選び



在宅生活スタート

日中活動支援 居場所づくり



事例2 リストラ・生活破綻

近隣からの相談



家庭訪問(接触できず何度も訪問)



本人と遭遇・面談約束



面接(生活の問題整理・制度紹介)



生活保護



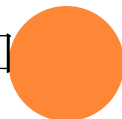
債務整理



就労励まし*市に本人の代弁



就労決まる *毎日報告にくるようになる 地域食堂へ参加



事例3 ごみ屋敷からのSOS

近隣からの苦情



家庭訪問(親子の課題把握)



サービス拒否・支援拒否



ごみ屋敷支援(地域のボランティアが関わる)



家計支援(住居転居)

母支援

娘のサポート



家探し

* 民生委員



母親病気発覚



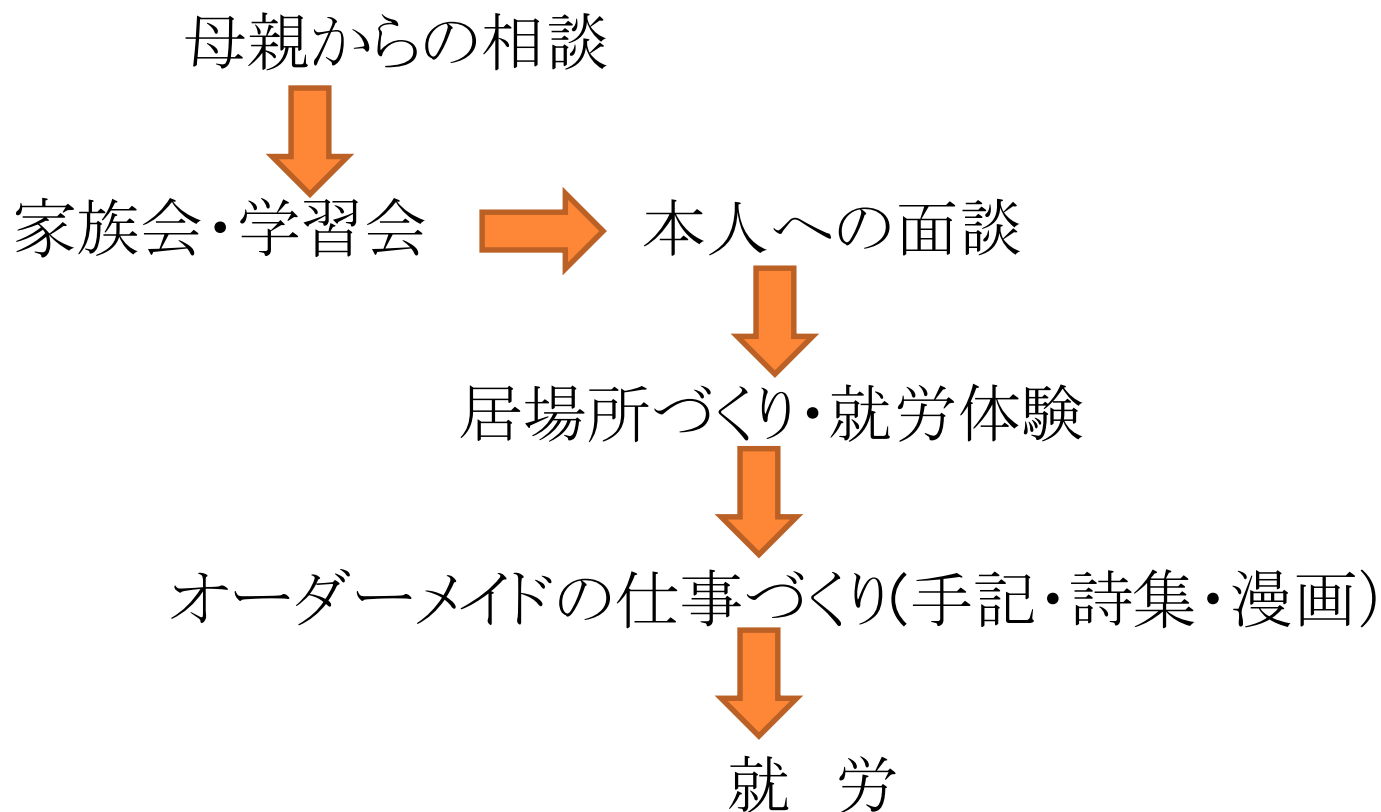
介護保険



就労支援



事例4 ひきこもり



事例5 高齢者虐待の疑いの息子の就労支援 地域のなんでも相談からサービス拒否の親子の相談 家庭訪問(息子の病気と経済的な不安が発覚)

高い家賃に悩み・医者代が出せない

緊急支援(食材・医者代・ライフライン)

生活保護と介護保険の申請(サービス拒否)

車が手放せない

母親には

息子には

息子支援

母親を老健施設に入所

転居支援 生活支援・就労支援・社会参加

事例6 子供の貧困への対応

お弁当時間に廊下に出ていく子供のことで学校より相談



学校に訪問(フードバンクを持ってアウトリーチ)



母子世帯困窮を把握(家庭訪問)



緊急支援(食材・医者代・ライフライン)



生活保護(サービス拒否)

世帯には



生活保護手続き

ひきこもり息子には



就労支援

子供には



子ども食堂への案内

学習支援 →ボランティアに



5-1, コミュニティソーシャルワーカー の取り組み 個別支援から仕組みづくり

- 福祉ゴミ処理プロジェクト
大量ごみの処理についてのルール化を図る
- 徘徊SOSメールプロジェクト
- 各種交流会の開催 同じ立場の介護者をつなぐ
 - 高次脳機能障害者家族交流会&自主グループ化
 - 広汎性発達障害者の家族交流会&自主グループ化
 - 男性家族介護者・若い家族介護者の交流会
- 子ども食堂
- 豊中あぐり
- 引きこもりの居場所づくり ビーの×マルシェ
- 内職広場・道端の駅
- 福祉便利屋
- フードドライブ
- 8カ国語の地域福祉ガイドの作成



5-2, 豊中の生活困窮者支援プログラム開発

- 善意銀行の生活困窮者貸付
- 民生委員助け合い資金
- 物品提供
 - 衣類 …寄付
 - 食糧 …フードドライブ ダイエーの食品ロス事業
 - リユース…環境部との連携引っ越しごみ(家具・自転車のリユース
- 施設 社会貢献費用との連携
 - 一件10万円まで現物支給



社会資源開発 (地域づくり)

- 個を支えるための仕組み
- 個を支える居場所づくり
- 地域課題を解決するための社会資源開発
当事者とともに作っていくことが大切



①すべての人に居場所と役割を 宅地の無償貸与→都市型農園豊中あぐり





原田菜園での芋ほりと出来た焼酎「豊中あぐり」



しめ縄作り



案山子を作りました

ボランティア活動

2018_6_18 北大阪地震

岡町菜園での土嚢袋作り



モルタルの補修

被害家屋のかたづけ





8 12 13NHKあさイチで生中継



移動販売車



②すべての人に居場所と役割を

内職広場・・・仕事を通じての社会参加



道端の駅・・・びーの×マルシェに高齢者の手作り品の
常設販売スペース



③すべての人に居場所と役割を 子どもの居場所づくり地域福祉モデル事業 ～子どもの居場所ネットワークの構築～

【内容】

子ども食堂・フリータイム・
学習支援（学生ボランティア）

《小学校区レベル》

「子どもたちの居場所」

一人ぼっちをつくらない
生活力をつける
自己肯定感を高める
自分の役割を感じられる

【実施主体】

校区福祉委員会

《社会福祉協議会》
コンセプトの共有
フードバンクの構築
学習会の実施

【実施主体】

社会福祉法人

《圏域レベル》

※市内7圏域

「福祉施設を中心にした
トワイライトステイ」

施設の社会貢献事業
地域で支えきれない子どもの支援

【内容】

子ども食堂・入浴・学習支援

《民間企業・NPOなどの 活動団体レベル》

「民間性・専門性を活かした支援」

子どもの貧困対策
家庭の経済状況による学力格差の解消

④すべての人に居場所と役割を 福祉便利屋事業住民主体の運営委員会



福祉便利屋(住民主体B1)の取組

200円/15分の支え合い



⑤すべての人に居場所と役割を 引きこもりの就労支援プログラム

- CSWの相談の中で対応が難しかった就労まで距離のある若年の支援(ニート・ひきこもり・リストラ・ホームレス等)

→就労準備的な活動 *本人との目標設定(PSプラン)

居場所→就労プログラム→就労体験→就労

- ①居場所…週4回(生活面と自己肯定感、仲間意識)
- ②就労プログラム2時間一コマ 活動費支給
- ③就労体験…新聞配達、団地の草ひき、買物支援、パン屋さん
農業、林業、うどん屋さん等
→職域開発地域のネットワーク発揮 活動費支給
- ④ビーの×マルシェでの定期的な就労体験
- ⑤就労訓練…パートで一定期間仕事に就く(この間就活)
- ⑥就労支援…就労支援センター・ハローワークとの連携

アウトリーチ		居場所参加	中間的就労	就労体験	就労準備	一般就労
家庭訪問 家族会参加	生活支援	500円/2H	新聞配達	就職活動 地域就労支援 センター	OB会	

豊中びーのびーのプロジェクト

- 対象：発達障害，引きこもりなどで就職に距離がある人
- 活動費：1コマ（10:00～12:00，13:30～15:30）につき500円
- あらかじめ、プログラム予定表を作成し、参加したいプログラムにエントリーしてもらう

★プログラム参加の中でオーダーメイド型の支援を行う



①支えられていた人が支え手になる

プログラム進捗状況（就労体験）

○就労体験プログラム…ジョブサポーターと共に仕事を体験

- ・ 出前市場のサポート…府営住宅での出前市場の際、

お買い上げの商品を家まで運ぶ



- ・ 情報誌、夕刊配達





びーの×マルシェ

びーの×マルシェオープン！
 「豊中びーのびーの」（引きこもり等の若者支援事業）と「豊中市小売商業団体連合会」の協力でお店を6/12にオープン！



社会資源開発 フードドライブ



7, 総合相談で大切にしている10のポイント

- 入口と出口づくり

入口 早期発見ネットワーク 解決力が発見力

出口 一般就労だけが出口ではない

ひとりひとりの役割がある

- 本人の自己肯定感を高める 徹底した本人尊重

- 翻訳機能 行政と本人 事業所と本人 地域と本人

- **SOS**を言える気づける地域づくり

知ることによって優しさが生まれる

- 開発力 ないものは作る セーフティネットを作る事業

緊急小口資金・フードバンク



- できる・できないのジャッジのワーカーではない
本人の生活から支援を組立てる
- 家族全体の見立てが大切
包括から見たら虐待？ 息子支援は？
保護か？就労支援？
- スモールステップを積み上げる 本人と目標を共有する
- 諦めない心 人生をあきらめかけて人を支える私たちが先に諦めてはいけない
- 援助関係づくり サービス拒否は支援者が拒否されてる
あなたを心配している。苦しい思いを受け止める
社会資源の活用は本人が主体化しないと始まらない



8, 今、求められる総合相談への期待

①早期発見や地域包摂を目指す

地域との連携が欠かせない→住民との協働できる相談窓口

* 市役所に各セクションが集まっているだけの総合相談では庁内連携でよい → できるだけ地域に身近な場所がないと相談は集まらない

* まるごと相談は行政の内部だけの統合か、地域との連携か？

②断らない福祉を進める

制度の狭間から仕組みづくりを行う問題解決の仕組みを明確に

③地域と協働する相談職員はエリアに複数配置と一定期間の配置が必要

専門性は制度につなぐことで対応できることよりむしろ地域の資源との連携が必要・・・横をつなぐスペシャリスト養成を

④制度につながりにくい人への支援

制度に当てはめるワーカーでは対応できない人材養成が必要
さらに傷つけることになってしまう

→ ソーシャルワーカーの本格的な養成と待遇改善
社会福祉士が正規職員となれる環境を



⑤本人支援と地域にわがごととしてとらえる人を増やす支援

例) 7人に一人の子供の貧困で1人の支援だけではなく

7人の予防やみてみぬふりをさせない支地域づくり

教育・社会教育との連携

自己責任論からの開放

経済的な格差の固定化への対応

⑥地域づくりの方法

1) 個の課題から始まる地域づくり(ソーシャルサポートネットワーク)

本人の居場所と役割づくり

2) 制度の狭間を支える公民協働の仕組みづくり

当事者・住民参加を基本に関係機関とプロジェクト会議を作る

3) 福祉からだけでなく楽しいからつながる工夫(豊中めぐり、お店等)



福祉がまちおこし

⑦現時点では生活困窮者自立支援の相談窓口アウトリーチや地域づくり機能を強化していく形のほうが現実的。ここも体制が不十分で形骸化してしまう